道路改良と住宅改善

富山縣土木課長　木村憲七郎

日本の道路の、悪いと云ふ事は、既に何人の耳にも口にも、充分飽かれて居る事であるが、實際大都市を除いたら憐れなものであつて、殊に凡ての文明的施設に、何時も一歩遅れて居る東北地方や裏日本一帶は慘憺たるものである、國道と云ひ縣道と云ひ形は道路に相違ないが、所謂人や車馬が交通し得る丈けに止まるものが多い。一旦降雨に際しては泥濘下駄や靴を沒する事はまだしも、甚だしきは其深さ尺餘に達するものさへある、のみならず幅員狹くして一臺の自動車さへ辛うじて通じ之が廻行するにも二度も三度も逆行せねばならぬものも多い。其他勾配と云ひ屈曲と云ひ何れもお話にはなるまい。

それもその筈、今日の國道は昔諸大名が參勤交代の行列通過の爲に造られたもので、中央に座した大名諸侯が、列頭列尾を見屆け度いために特に廻り曲けて、造らしたものもあり、又平地を選ばずして、態々山地を通り、急坂までも造つたのは、平凡の風致に飽かない爲に、他所ながら眼を樂しませたい爲めもあるとの事である。

當時の專制政治から見れば、大した無理でもなかつたであらうが然し今日考へれば、狂氣の沙汰と云はねばなるまい、然るに斯の如き道路が昭和の御代にも、現存して居るのである。

○

現在地方の國道とか指定府縣道の未改修に屬するものは、皆之に類するものである。それを僅かに路面に、小砂利を敷いて天下一般交通の用に供すとは誠に笑止千萬の至りではあるまいか。而も側溝排水の不充分より、降雨の際は、交通の用よりも排水路の役をつとめ、皮や肉が削られて空しく殘骸のみ露はれて居る樣な狀態を呈して居るものもある。

右樣の惡道を日常通行せざるべからざる地方民が、大修繕を渴望し改良を希ふは、無理もない事であり、同情せざるべからざる事である。

よく聞く聲ではあるが「道路の改良は贊成であるが金がない」と。之が先づ、今日の識者の聲である。考へ方によつては、不用の剩餘金でもあつたら、やつて良いと云ふ事であらうが、世の中が、進むに從ひ社會組織は、多々益々複雜を加へ、あれもこれもと、爲すべき施設が必要となり、未來永久に不用の、剩餘金などは浮いて、飛び出る筈はなく、從つて道路だけが、獨り取り殘されはしないであらうか。

よく周圍を見察して見るとき、遠き將來は愚か、今日既に道路は非常の立ち遲れとなつて居るのである。

○

先づ見界を遠く歐米迄も延ばして見るに如何、郵便電信に、教育に、警察に、農業に、吾が國の此等は、必ずしもそれに劣るものでは無いものにより遙かに、先進國を凌駕して居るものさへ尠くはない。

然るに、土木の施設殊に道路に至つては、どうであろう。六大都市の街路を除いたら、道路と云ふ名稱を附するさへ恥かしいものが多いではないか。歐米人にして初めて日本に入國する者は勿論、同胞人にして歐米より歸國する士が、驚かされる最初の事は道路の極惡なる事と、建築物の貧弱なる事とである。「日本が今日、世界の五大強國の一である」なぞと自惚れて居る人も、ある樣であるが、私をして云はしむれば正氣の沙汰とは思はれない。夫は啻に軍事上等の特殊の見地からではあるまいか。文化の施設に至りては、二等國は劣か三等國に列する事さへ疑はしいのではあるまいか。座して歐米の天地を想ふ時、それは夢の世界のそれの如き感がある。夫程隔世の感があるのである。

○

吾が國とて之等の施設の、重要なる事は勿論忘れられて居るのではない。之が改良は焦眉の急なる事は誰一人として、異議を唱ふるものは、斷じてあるまい。然らば何の爲めに、何が原因で、日本の道路が斯くも、時勢に立遲れたものであらうか。道路改良の急務なるを叫ぶ反面に、又道路のみが他の施設に立遲れたその原因を尋ぬる事も、無駄な骨折ではあるまい。基よりその原因と云へば、吾が國

の財力の乏しき所以と、誰しも異口同音に、唱ふる處であるが、然し一歩進んで、地理的關係や、歷史的關係を、考究して、肯かるゝ事は、吾が國の文化は、その昔多くは支那より輸入したものである、而して或る程度の建設を終つた後、泰西の文化を輸入した、と云ふそれである。

○

而して改造となれば、經濟上から見て寧ろ、新設に數倍する困難を伴ふばかりでなく、更に又吾人の風俗習慣が、之等文明的施設と距るべからざる、密接の關係にある事も、見逃すべからざる事である。卽ち改造は、物質的關係のみならず、抽象的種々の關係を伴ふ場合が多いのである、否此抽象的關係が寧ろ、物質的關係を支配する有力なる、理由を提供する事となるのである。所謂道路は改良し度いが金がないと云ふそれである。此の言葉たるや、爲政家の常に口にする所であり又聞く人の、成程と肯くところでもある、之を私は抽象的關係が、物質的關係を、支配すると指し度い。それは卽ち支那の文化を輸入する事により、基礎の定められた吾人の所謂日本式木造住宅である、その住宅に關係を持つ吾人の風俗習慣である。羽織袴や、下駄履きの風習を有する、吾々日本人にコンクリートやアスファルトの、鋪裝道路が如何にも不調和であり、重要視されぬそれである。卽ち私は日本の道路の立ち遲れは、所謂日本式木造家屋の影響が蓋し大をなすものであると考へるのである。そうして見れば道路と家屋とは密接なる關係を有するものであつて、道路の改良は、從つて家屋を改良せしめ、又家屋の改良は、道路の改良を促す事となるのである。

舟板塀に見越の松式の家屋に、アスファルト鋪裝が如何にも不調和の樣に丸ビルの附近に砂利道も、同じく調和を缺くものであろう

○

然るに吾が國家屋の一般狀態はどうであるか。大都市を除いては、依然として昔その儘の建築樣式である、村落の農家に至りては、衞生も經濟も、更に顧みられぬ幾世紀前かの樣式を、繰り返して築造して居るものも尠くない、從つて此地方の風習も亦昔の儘を嚴守して居るのを、見受けるのである。

凡そ文化の普及は、その經路を辿れば多くは大都市より、中小都市へ、更に村落へ漸進的に、及ぼすものであつて、大都市は又何れより求むるかと云へば概して、歐米先進國よりであると云ふ事は、誰しも否定出來得まい。

○

扨て私が茲に述べ度いのは、吾が國現代の建築物、就中住宅である。住宅の改善と云ふ事は、近時可なり宣傳されつゝある事であるが、私は道路の改良と密接の關係を有する意味に於て、又吾人の保健、經濟の上に於て、特にその現下の重要事たる事を叫び度いのである。由來吾が國は、人口の割合に面積狹小、從つて常食とする米産額も、吾人の命を繋ぐに足らず、年々四百萬石と云ふ多量の米を輸入に待たねばならぬ、加ふるに人口增加率の大なる事は、世界に異彩を放つて居る國である。

實際考へれば、將來寒心すべき現象であるに相違ない。或は食糧問題の解決とか、或は産兒制限とかの論ぜらるゝ誠に故なきに非ざるのである。而も文化の進展は、耕地を漸次住宅地化し、卽ち平面的には近來殊に長足の發展を爲しつゝあるのである。土地所有者は、地價の騰貴を喜び、一般世人は又時勢の進展を謳歌するであらう。

然りと雖も、退いて此の現象を熟慮するとき、必ずしも賀すべきものと云ひ得やうか、時の趨勢止むを得ざるものとするも、國土には限りあり、人口の激增と耕地の漸減を考慮するとき、吾が國の將來や、果して如何と云ひ度くなるのである。

茲に於て、私は此平面的發展を轉じて、立體的にせしめ度いのである、平面的發展は、耕地を減じ地價を騰貴せしめるのみならず、凡ての交通機關が、必要とせらるゝ事より經濟上の打撃は甚大なるものがあるであらう。

○

獨立の大小家屋が一家族的毎に、建築せらるには、又之に應じて大小の道路が、新設せられねばならぬ。新たなる發展地は別として、現在家屋の密集せる舊市街に於ても大小道路の數多き事は、歐米地方で決して見られぬ、東洋の特徴である。今假りに之等の獨立せる、大小の家屋二三十戸宛を、一團として五六階建の集合家屋としたならば、どう云ふ結果となるであらうか。必要とする土地は、恐らく三四割以下で足るであらう。幅員の狹い二三線の道路は合して、幅員の大なる一線の道路に換へら

れるであらう。不經濟なる木造は、鐵骨若しくは鐵筋コンクリートの如き、永久的構造となり、各戸の凡ての施設は勿論交通に、保安に、衛生に、經濟に、國家として益する事、甚大なるものあるであらう、そう云ふ事になれば如何なる、爲政家も道路は改良したいが金がない」と云ふ様な事も、恐らくなからう。

又改良には受益負擔が附物である、その受益負擔も各戸の割當が比較的に、非常に尠くてすむ事となるから、從つて道路は、抽象的にも、物質的にも重要視され、忽ちにして面目を一新する事が、可能となるのである。

○

日本が世界各國を通じて、地價の高いので有名であるのも、人々が土地熱の隆盛なるに、歸因するのであつて、之も要するに、吾が國家屋の構造より、平面的發展を、遂げつゝある所以である、人として自己の爲めに、獨立した住宅を望むは、洋の東西を問はず同樣であるが、歐米に於ては、餘程の富豪か然らざれば都市の郊外や、地方に限られて居る。然るに吾が國では、都市に於ても、棟の連續した家屋さへ、之を長屋住居と輕蔑するの風習である。

從つて富豪に非ざる限り、その住宅は保健的に見ても、歐米のそれより凡ての施設が、劣つて居ると、云ふて差支ないのである。

一體吾人の日常生活に缺くべからざるものとしては衣食住の、三つを擧げるが、一般的に衣は日本人として寧ろ尙ほ、節約の餘地ある程充分なりと、思考せらるゝものが多い樣である、殊に現代の二重

生活を考ふるとき、その不經濟なる點は、誰しも思ひ及ぶところであらう。食は先づ常態であるとしても、住の點に至りては、遺憾ながら非文化的と云ふよりも、非合理的と云ふ方が適言ではなかろうか。之も祖先傳來の風習と云へば、それ迄ではあるが昔文化の程度の低かりし時代の風習を固守せむとする我々日本人の氣質も、擧つて大いに、力あるものであらう。よく耳にする事であるが「誰々は西洋かぶれして居る」と。然しそう云ふ人に限つて、洋食も食ひ洋服も着て居るのであつて何も、チョンマゲ時代を懷しんで居る譯でもあるまい。私は模倣が決して悪い事ではないと信ずる、改良も發明も先づ模倣に待つ事大なるものあればである。泰西の長を取り吾が短を補ふは、大に奬勵すべき事ではなからうか。

○

生活改善の第一線に於て、又道路改良を叫ぶ上に於て、私は住宅の改善を併せて叫ばざるを得ないのである。私が茲に住宅の改善と云ふは、所謂洋式を指すのである、洋式と云ふて語弊があらば、椅子式とでも云ひ度い、而して都市に於ては集合家屋樣式に改め度いのである。只吾が國は古來より地震國であるが爲めに、集合家屋樣式は住宅として工事費の點に於て、不經濟ではないかと云ふ非難はあるかも知れないが、米國の如き突飛な高層建築ならいざ知らず五六層位の程度に止むれば、永年に亙る經濟上より寧ろ、より經濟なものが出來上るのである、茲に一口に集合家屋と云ふても、或は解し難き點があるかも知れないが、ホテルやアパート式に單純各部屋を配列するものではない。例へば

各層毎に、二ケ所若しくは、それ以上の廣間を造り之に各戸の入口を設け各戸は完全に厚い壁によりて區劃せらるゝのであつて隣家との往復は入口に依るに非ざれば絶體に交通出來得ないものとするのである、ドアーさへ完全にすれば留守番がなくとも全家族の外出は安全であり客間より隣家の臺所や干物場を見る様な不愉快もない。尤も彼の大震災後の、帝都復興に於て市中の一部幹線道路に沿ふては、此集合家屋制を採る事になつて居る事は、私は誠に意を強うして居るのであるが、もう少し之を積極的にして欲しいのである、勿論此の爲めには都市計畫路線の決定を待たねばならぬ、然らざれば將來移轉や、改築が容易なものでないからである。

○

集合家屋樣式は大中都市に於て、理想とするところであるが、一般小都市や村落に於ては、基より實行出來得る事ではない、殊に農家等に於ては寧ろ不適當のものであらう、然し之等小都市や村落に於ても住宅の改善は又道路改良と併せて充分考慮を拂ふべき事と信ずるのである。古い風習を固守する點に於ては都會人士以上に、地方人士は力強いものがあるのである、それは概して教育程度も低く、見聞の狹い事も一因ではあるが都會に比して生活が、比較的安定であつて、新規改善を欲する欲望よりも、守るを以て安全第一とするからである、然し如何に固守する事が安全第一とは云へ、その安全の範圍内に於て改善を加ふるは大に勸めねばならぬ事ではなからうか。實際現在の農家は保健上より、幾多改善を加ふべき事があると云ふ事は、世上よく唱ふる處であるが、私は一般的に見て、農商工

の何れを問はず、地方も椅子式住宅に改善する事の有利、有意義なる事を信ずるのである、而して二重生活の苦しみより早く脫する事を得は甚だ幸なりと考へる。

椅子式住宅には短所もあらうが又長所は擧げて數ふべからざるものがある。今日官廳學校銀行會社は勿論の事、交通機關の汽車や自動車に至る迄椅子式である、都會の大商店や劇場も同樣である、住宅も漸次椅子式に變りつゝあるのである、之が一般的に地方の住宅に及ぼす時は、やがては服裝も一定し風俗習慣も亦改廢せられて、新日本が築き上げられるのである、その時に至つて惡道に目が覺めるのは、先見の明なき者と云はなければならぬ。

道路の改良は氣分の上や便不便の上から論ずるのではない衞生上や、保安上は勿論の事、國家的に見て經濟上の甚だしき損失あるからである。

果して然らば凡ての施設改善の先驅者として、寧ろ道路の改良を先きにすべきではなからうか、捕はれたる古い因習に基く、誤れる感念は捨てゝしまつて新日本を築くべき文化の先驅者たる、道路改良を忘れてはならない。

◇ × ×——————× × ◇